

ウミガメの卵保護

鴨川シー、218個施設内に

鴨川市の鴨川シーワールドは27日、台風12号接近による高波などに備え、同市の真門海岸2カ所に産み落とされたアカウミガメの卵218個を保護した。写真(同館提供)。同館内のウミガメ類展示施設「ウミガメの浜」に収容し、経過を見守る。

卵は波をかぶると酸素不足になりふ化できなくなる恐れがあるため、保護。卵は海岸から海への水路近く

にあり、台風が接近すれば、大波や冠水の被害を受ける可能性がある」と判断した。飼育員が27日午前11時ごろに保護し、9月にふ化すれば保護する」と話した。



アカウミガメは日本を主要な産卵場所としており、本県は北限域にあたる。産卵期は7月上旬～8月中旬。同館は2002年から、ふ化に適さない場所に産み落とされた卵の保護活動をしている。

た後に海へと放流する。

同館広報担当者は「あす

の朝も海岸での見回りを

産卵場所に危険性がある

れば保護する」と話した。